

森のこだま

第62号

守る会の三原則

- 一、決して争ってはいけない
- 一、争いの中に弱いものの生きる場はない
- 一、親個人がいかなる主義主張があっても重症児運動に参加する者は党派を超えること
- 一、最も弱いものをひとりももれなく守る

運営基本理念

人に優しい施設づくりを目指します



社会福祉法人 全国重症心身障害児(者)を守る会
保健医療・福祉施設あしかがの森

あしかがの森足利病院 あしかがの森足利福祉センター

〒326-0011 栃木県足利市大沼田町615 TEL 0284-91-0611 FAX 0284-91-2867

令和7年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会への参加報告

保健医療・福祉施設あしかがの森

あしかがの森足利病院

院長 小平 隆太郎

令和7年5月22日(木)・23日(金)にホテルニュー長崎で、令和7年度日本重症心身障害福祉協議会が開催されました。当施設からは所長・院長が参加しました。以下、内容報告です。

1. 行政説明(厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 課長補佐 青木 健一郎)
2. シンポジウム「重症心身障害の魅力」を現場から発信する ～人材確保の取組から～

基調講演

「技能伝承に学ぶ世代間コミュニケーション」と「職場チームのファシリテーション」 京都大学総合博物館准教授 塩瀬 貴之

京都大学総合博物館准教授塩瀬貴之先生は50代のロボット工学を専攻されるエンジニアで、若手世代との文化・技術・伝統継承において、例えば石造物であるギリシ

ヤ・ローマ建築がユネスコ文化遺産に認定されるのに対して伊勢神宮などが認定されないのは、素材・工法が生活を共有することによる文化・風土への理解の深まりがマニュアル化しにくく、価値観強要ではなく異なる価値観を有する相手と新たな価値を創り出す生成継承性を強調されていました。

シンポジスト 5名

- ①「医師確保のための施設のかたち」地域での役割と医療機能、他機関連携、確保条件など」 びわこ学園医療福祉センター草津施設長 口分 田政夫
- ②「教育体制の構築と重症心身障害児・者看護の魅力」を発信できる組織作り」 枚方総合発達医療センター教育担当 井澤 陽子
- ③「チームで行う療育の魅力」 支援職の人材確保と人材育成」 島田療育センター療育局長・認定看護管理者 落合 三枝子
- ④「処遇改善加算を財源にした給与制度改革の取り組み」 事務部門(施設経営)の観点から」 医療福祉センター札幌あゆみの園常務理事・事務局長 木村 真人
- ⑤「外国人雇用の取組みについて」 社会福祉法人枚方療育園 事務局長 余田 勇太郎

①は、医師教育体制の立場からの

人員確保、②は看護師の立場からの人員確保や離職への工夫、③は介護福祉士・保育士・児童指導員等の療育スタッフ育成の工夫、④は人材確保・経営が容易ではない状況下での給与・経営面での工夫、⑤は、特定技能者在留期限が5年の中で60名余りの外国人を雇用し、介護福祉士合格率70%の結果を出され、外国人雇用上の注意点を指摘されました。いずれも日本少子化が進むなか、福祉介護の枠組みを維持するための各職種確保に対して、みなみならぬ努力・工夫が感じられました。

特別講演

演題「一人一人の人生とどう関わっていくのか 私」の50年の振り返りとこれからを考える」 堺市立重症心身障害者(児)支援センターベルデさかい 名誉センター長 児玉 和夫

児玉先生の特別講演では、長年の経験と、行政の試算・現実とのギャップ・歴史的やりとりを始め、今後の展望・在り方を述べられました。西日本中心に、重症心身障害施設の空床が増加している、非入所施設である福祉型療養介護支援施設と医療型入所施設の在り方に変化が生じている。福祉型療養介護支援施設は施

設入所ではないので、地域移行の対象外であったが、重症心身障害者の地域生活基盤と施設の役割という点で、無関係ではなくなった。2010年ころの行政予測では、当時、周辺群も含めた1万9千床の重症児病棟が、死亡と家庭引き取り、生活介護施設と重症児グループホームの普及により10年後2020年には9千床に減少する見通しだった。ところが、2010年4月から2024年4月までに、施設数122から139、入所者数は11,854から14,193に増加していた。0歳から2歳までの入所はNICU等からの在宅困難な医療的ケア児の需要増加、18歳以降は特別支援学校卒業に伴う需要増加、30歳から50歳にかけては利用者の機能低下や医療ケアの必要性が増加し、同時に親が60歳台、70歳台に達し在宅困難による需要増加が背景に存在する。重症心身障害児の多くは、18歳以下は短期入所などを利用しながら在宅が主要な生活拠点だが、年齢が上がるに伴い医療的ケアが高まり、都道府県の枠を越え施設入所に移行している。

児玉先生の講演を拝聴して、行政説明や当院も含め重心施設の方向性への理解が深まりました。

優良防火管理担当者として受賞

5月21日にニューミヤコホテルで開催された足利市防火協会の授賞式で、総務部の浦野管理係長が受賞し表彰状を授与されました。浦野管理係長は、多年にわたり防火管理担当者として施設内の防火研修等に努め、施設の防火に積極的に行動してきたことが評価されました。これからも、火災のない施設運営に努めていきたいと思います。



保健医療・福祉施設あしかがの森基本理念

《運営基本理念》

「人に優しい施設づくりを目指します」

《基本理念の実現に向けた施設づくりの方針》

1. 人の命と尊厳を守る施設
2. 患者様、入所者様、利用者様が満足できる施設
3. ご家族様や保護者の方が安心して依頼できる施設
4. 地域の保健・医療・福祉に貢献する施設
5. 近隣の施設と連携・協働する施設
6. 職員がやりがいを感じて働ける施設
7. 地球環境を守り保護する施設



《「基本理念」や「施設づくり方針」の実現に向けた具体的な運営指針》

1. 病気や障害を持つ方々を支援する、地域の中核的施設になります
 - ・入院機能だけでなく、外来・在宅支援機能の充実にも力を注ぎます
 - ・在宅療養の福祉支援を充実させます
2. チームでの医療・療育を重視し、各職種間の連携を深めていきます
3. 医療や看護、療育機能の質の向上を図ります
 - ・施設内・外での研修や専門的な資格取得を推進します
4. 地域を対象とした講演会、研修会、公的機関への専門的支援などを通して、地域との連携を図ります
5. 施設の機能を客観的に評価し、サービスの質の向上を図ります
6. 全国の施設や団体と協力し、障害児者支援のレベルアップを図ります
7. 職員が働きやすい職場となるよう、勤務制度の整備、労働環境の改善、施設・設備の改善に努めます
8. 様々な事業を推進するために、職員の確保を図ります
9. 経理内容を随時点検し、施設の健全な経営を行います
10. 施設の省エネルギー化やリサイクルを推進するとともに、施設内の環境美化に努めます

「個別療育科について」

療育部 個別療育科長 山形 陽一

令和7年4月、あしかがの森足利病院において、個別療育科が立ち上げられました。今回は、個別療育科の目的、活動内容などについて、ここで紹介させて頂きたいと思います。

個別療育科はその名の通り、入所利用者に対して、個別療育を行っていくところです。現在、3名の職員が配置されています。利用者さんへの活動は、今年度は、利用者1名に対して、2ヵ月に1回程度の活動を予定しています。場所は、3Fの個別療育作業室(多目的ホール前の一室)やホールの一部、3Fテラスなどで活動を行っていきます。内容として、第一弾は絵画を行う予定です。自ら選択した技法と、状態に応じた方法で表現活動を行っていきます。生み出された作品は、院内展示や外部の作品展等に応募をしていこうと考えています。第2弾は、手浴や足浴、エステ、ネイル等、リラックスを目的とした活動、第3弾は園芸などを企画しようと考えています。個別療育科が目標とする柱は2つで、1つは先に述べた「確保された個別的な関わり」がありますが、もう一つの大事な柱として、「人や社会との繋がり」があります。入所利用者の多くは、病棟内で過ごす時間がほとんどで、人との繋がり、面会に来るご家族、病棟内職員に限られ、広い世界とはいえません。個別療育科の活動に参加することで、他病棟の利用者や職員と知り合えることもあるかもしれませんし、作品を通して、新たな出会いがあるかもしれません。また、園芸などで生産したものをイベントで販売できれば、「働く」ということにも繋がります。楽しく工夫した活動を計画していきたいと思います。また、それとは別に、入所利用者の中には、6歳以下の幼児も数名入院しています。本来、保育園や児童発達支援センターに通う年齢のお子さんです。今年度は、幼児グループ知育活動を展開していくことを計画しました。その他、年に2回、多目的ホールでイベントも企画しました。今後お知らせしていきます。

原稿を書いている現在は、各病棟へ利用者の情報収集を行っている最中です。情報収集後は、活動を展開していく予定です。ただこれらの活動の全ては、病棟のご協力なしでは、行えません。当日の体調や参加の可否、活動へ行く準備などご協力をお願いすることがあるかと思います。その際は、よろしくお願いいたします。

個別療育科の愛称を「りんくステーション」としました。「りんく」、繋がる、の訳と「ステーション」、場所・停留所の訳で、これらをあわせた造語で「人や社会と繋がる場所」の意味を込めました。「りんくステーションいってきます」など愛称が浸透していけばよいなと思います。これからよろしくお願いいたします。



施設内へのカメラ設置について

通園センター管理者 星野 雄志

外来療育棟の通園センター第2デイルームに、カメラが設置されました。こども家庭庁が進める、「保育所等における性被害防止対策に係る設備等支援事業」の一環で、国の補助金を受けての設置です。

近年、子どもを預かる施設において事故や不適切な保育・療育の報告件数が増加傾向にあり、保育所等でカメラの設置が進められ、児童福祉施設の側面を持つ当施設もその対象に含まれます。プライバシーの保護や設置場所、映像の取り扱いなどに十分な配慮が必要ですが、子どもたちの安全確保や、保護者の安心感向上、保育・療育の質の向上など、様々なメリットが期待されています。

監視されているようで嫌、との意見もあるとは思いますが、職員にとっては自らの正当性を証明する証拠になるものです。安心して業務に当たっていただければと思います。

薬剤コラム



薬品名のアルファベットの意味は？



薬品名のうしろにアルファベットがついてものがあります。その意味は会社名の頭文字だったり有効成分の頭文字だったりするものもありますが、多くは錠剤またはカプセル剤の製剤に工夫されていることを表すしるしだったりします。

今回は、代表的なものをいくつかの分類にわけて説明します。

▶ 口腔内崩壊錠（水なしで飲める薬）

アムロジンOD錠やレンドルミンD錠に含まれる「OD」や「D」は、Orally Disintegrating（口腔内崩壊）という意味を表しています。これらの薬は口腔内崩壊錠と呼ばれ、水なしで飲むことができるため、錠剤を飲むことが難しい患者さんでも飲みやすいというメリットがあります。副作用防止の観点からなるべく水で飲んだ方がよいといわれています。（添付文書に水なしで飲めるかどうか記載があります。）

一方で、唾液だけで溶けるなど湿度に弱いといった難点もあります。また、ODやDだけでなく同じ製剤の工夫がされている薬があります。例えば、採用薬ではありませんが、ゾーミックRM錠はRapid Melt（速溶）を表していますが水なしで飲める錠剤です。

▶ 徐放性製剤（徐々に放出する薬）

徐放とは徐々に放出するという意味で、体内で徐々に有効成分が吸収され、少ない服用回数で長時間作用が持続します。徐放性製剤はR（Retard）、SR（Sustained Release）、CR（Controlled Release）、LA（Long Acting）、TR（Time Release）などのアルファベットで表されます。用法が1日1～2回の内服薬によくつけられています。RはRapid, Regular（速効性）、Resistance（耐性）、Replacement（補充）など別の意味で使われる場合もあります。一方で、特殊な加工が施されているため、錠剤を割ったり、潰したりすることはできません。（有効成分が体内に素早く吸収されてしまいます。）



▶ 有効成分に由来があるもの

リンデロンV軟膏とリンデロンVG軟膏は有効成分が異なります。VはBetamethasone Valerate（ベタメタゾン）、VGはベタメタゾンとGentamicin（ゲンタマイシン）という意味を表します。リンデロンV軟膏は抗炎症薬のみの製剤、リンデロンVG軟膏は抗菌薬が含まれているため、出血がある創部にも有効です。

今回紹介したものはほんの一部ですが、他にも有効成分の量が異なるものを示す場合や同じアルファベットでも意味が異なる場合など、アルファベットのついた薬はいろいろあります。興味のある方は薬のこのようなところに目をつけて調べると面白いかもしれません。



イベント食の紹介



栄養科

こどもの日メニュー

5月2日(金)

ご飯、ハンバーグ和風ソース 若竹煮、小松菜浸し、カスタードプリン



主菜は、皆様から人気があるハンバーグです。大根おろしの和風ソースでご飯によく合います。付け合わせは人参のピューレを星型に固めました。副菜は、若竹煮と小松菜のお浸しです。タケノコは成長が早く、天に向かって真っすぐ伸びることから、端午の節句のお祝い料理に使われます。デザートは、カスタードプリンです。プリンにイチゴ・キウイフルーツを食べやすく固めたものと、ホイップクリームをトッピングしました。プリンアラモードのように盛り付け、こどもの日をイメージしています。食べやすく、味や見た目にも楽しいお食事となるように工夫しました。

編集後記



猛暑の日々が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

私は先日、赤城山へ涼みに行ってきました。大沼のほとりにある青木旅館の脇のスキー場跡地でのこと。少し登っていくと、左手の大木の根元にクサタチバナという白い花が咲き乱れていました。右手の大木にはアルプスの少女ハイジを思わせるブランコがかかっていました。ブランコに乗り漕ぎ出すと、目の前には大沼と黒檜山の雄大な景色が広がり、気分爽快でした！下り道で摘んだワラビの塩昆布和え、美味しかったなあ。

皆様も暑さに負けず、楽しい時間をお過ごしください。(M&M記)



編集委員

総務部

田村 義弘
根岸 真由
笹岡 一幸

診療部

久保 達也
濱 英俊
飛田 鮎太
中田 耕市

伊藤 栄子
後藤 薫

荒江 真理子
荒川 薫

看護部

関根 裕子
吉井 奈穂子

金子 薫

療育部

星野 雄志

通園センター

長野 弘呂代

フォレスト

柚木 修

(順不同)